

☆☆ ニチレク・ボールの遊び方 ☆☆

黄色い標的球に対して2チームがそれぞれ赤・青のニチレクボールを投げ合い、より近づけることによって得点を競うゲームです。

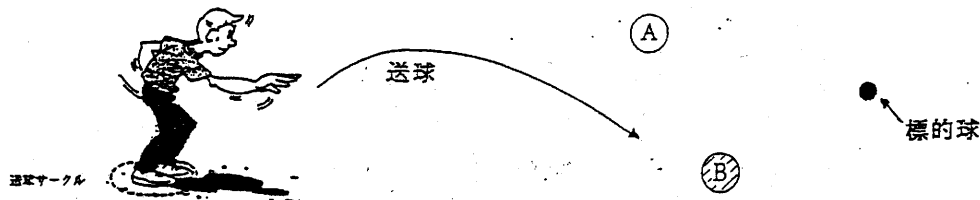
体育館や会議室などで床をいためることなく楽しむことができます。

競技者を2チームに分け、それぞれ赤と青のボールをもちます。(6個ずつ全12個)

- ◎競技者2名のとき……ひとりの持ちボールは6個でプレイします。
- ◎競技者4名のとき……ひとりの持ちボールは3個でプレイします。
- ◎競技者6名のとき……ひとりの持ちボールは2個でプレイします。

< ルール >

1. A・B両チームの代表がジャンケンします。……かりにAチームが勝ったとすると、
2. Aチームがサークルを置いて、その中から標的球(黄色いボール)をころがすように投げます。距離は6m以上、10m以内です。
3. Aチームがボールを標的球にできるだけ近づけるように送球する。
4. Bチームがボールを標的球にできるだけ近づけるように送球する。その結果……



5. 次は、標的球から遠いボールのチームが送球する。(図ではAチームが投げる)
6. 同様に次も、標的球から遠いボールのチームが送球する。つまり相手のボールより近くなるまで投げることになる。
7. しかし、かりにAチームがボールを全て投げ終わり、Bチームに残りのボールがあれば、そのボールも得点をさらにアップするために送球する。
8. A・B両方のチームがボールをすべて投げきて1セットが終了する。もちろん標的球に近いチームが勝ちとなるが、スコア(得点) - 例えば、相手チーム(負けチーム)のベストボールより3個近いボールがあれば3点となる。相手チームの得点は常に0となる。
9. 前のセットで勝ったチームが次のセットで送球サークルを置いて、標的球をころがしてゲームを進めていく。以後同様に繰返していき、13点先取したチームの勝ちとなる。

10. 得点計算の方法

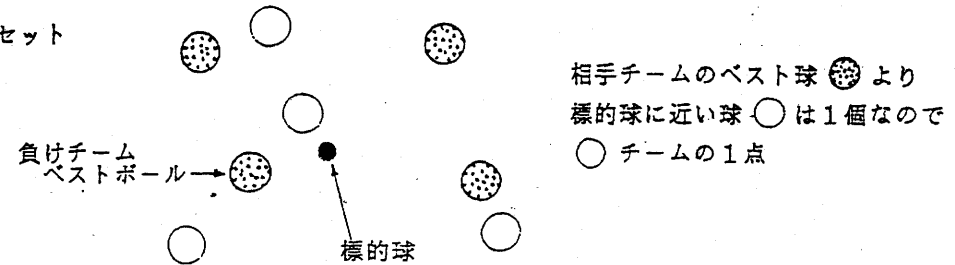
★セット終了後、最も近いボールのあるチームが得点を得る。

★負けチームのベストボールが基準となり、それより近い勝ちチームのボールの個数がそのまま得点となる。

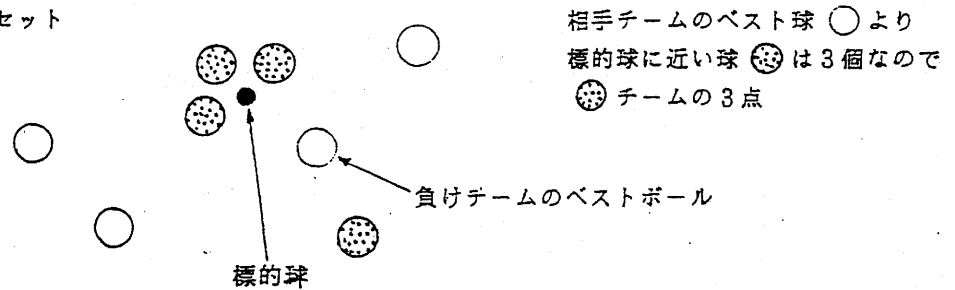
< 終了時の得点計算例 >

*ボール12個のうち4個は離れた所にあると仮定して図をご覧ください。

1セット



2セット



*この2セットまでの得点合計は3対1で●球チームがリードしていることになる。

11. 標的球に近い相手ボールをノーバウンドではじき飛ばしたり、ゲームの状況によっては標的球を意図的に移動させるための投球も必要な作戦です。
12. 投球は基本的にアンダーハンドスローで行ないます。手の甲を上にしてボールをつかみ、逆回転させるように投げるのがベストです。(不必要な転がりを防ぐ)

*1試合(13点先取)の平均時間は30分前後ですが、ゲームの展開により、かなりの開きがあります。競技時間が少ないときは、11点先取にするとよいでしょう。